



Shape the future
with confidence

EY Difference

キャリア案内 2026 定期採用
EY新日本有限責任監査法人



■ ■ ■
The better the question. The better the answer.
The better the world works.



Whenever you join,
however long you stay,
the exceptional EY experience
lasts a lifetime.

変化に向かって、皆さんの思いを一緒に実現していきたい

皆さんは今、ご自身の公認会計士のキャリアに関して、夢を大きく膨らませていることと思います。会計は日本国内のみならず世界の共通言語であり、自らを成長させ経済社会の森羅万象を理解し、そして社会貢献をするためにはこれほど素晴らしい職業はないと思います。

EYは、「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」をパーパス(存在意義)として掲げています。EY新日本は、グローバルな経済社会の円滑な発展に貢献する監査法人です。また、EY新日本では、各メンバーがマイパーパスを持っています。EYのパーパスと個々人のマイパーパスの方向性を一致させて、各メンバーのWell-beingを高めるとともに、すべての活動や業務が、「より良い社会の構築」「経済社会の円滑な発展」に向かっていくような取組みを実践しているところです。私のマイパーパスは「自身、法人、クライアントが共に真の成長を実現すること」です。マイパーパスは、文字通り個々人のものですので、例えば、「仕事もプライベートも楽しむ」というメンバーもいます。皆さんのマイパーパスはどのようなものでしょうか。マイパーパスとEYのパーパスを同時に実現することは本当にやりがいのあることです。

さて、このようなパーパスを掲げているEY新日本が求めている人材は、EYが掲げるパーパスへの理解があること、誠実であり高い倫理観を有していること、人的つながりの中での相互の敬意を前提として、専門家としての能力、環境変化への対応の柔軟性、プロアクティブなマインドなどの個性を有している方々です。当法人の監査業務やアドバイザー業務は、すべてチームを組成してクライアントに提供しており、皆さんにはチームの一員としてご活躍いただけます。プロフェッショナルとしてご自身が十分なレベルに達しているかと心配されるかもしれませんが、研さん経験を積みながら自身の成長を楽しん

でいただき、クライアントそしてステークホルダーに頼られるトラस्टッド・パートナーとなつていただくことを期待しています。

皆さんも私たちを取り巻く環境が大きく変化していることを実感していると思います。

経済、生活環境、規制などは、年々加速度的に変化のスピードを上げています。デジタル技術の進化、気候変動、インフレ、金利上昇、リモート環境での業務の普及、地政学リスク、企業開示の拡充などさまざまな変化があります。このような変化に対して、監査法人はいかにあるべきでしょうか。一言で言えば、社会の期待に応えるべく「先んじて変化に対応する」です。デジタル技術の進化は、“すでに起こった未来”であり後戻りすることがないトレンドです。

当法人では、次世代の監査・保証サービスを提供するためにAudit Transformationを推進しています。また、サステナビリティへの取組みの重要性が急速に高まる中、サステナビリティ経営から情報開示に至るまで、拡大するニーズに応えるため一貫したサービス提供が可能な体制を整えています。私たちは日本で最初の監査法人の系譜ではありますが、伝統にあぐらをかくことなく、先んじて変化へ対応すべくイノベティブな監査法人であり続けていきます。

このようなEY新日本で、マイパーパスを持って一緒に変化に向かいチャレンジしてみませんか。その先で、皆さんの思いがEY新日本で実現できれば、これほどうれしいことはありません。これは私のもう一つのマイパーパスです。皆さんのマイパーパスをぜひEY新日本で一緒に実現していきましょう。

植木 貴幸

常務理事 経営管理副本部長 人材開発担当

Career map

キャリアマップ

本誌内に登場するメンバーが今まで経験した業務や分野をご覧ください。取り組めるフィールドは幅広く用意されています。

それぞれが興味のある分野へと活躍の場を広げる中で、以降のページでは各メンバーが直近で従事している業務の一部をご紹介します。

◎は専門・得意分野 ●はこれまでに経験した業務・活動

※1 FAAS：財務会計アドバイザーサービス ※2 Forensics：不正調査・不正対策・コンプライアンスに特化したサービス
※3 CCaSS：気候変動サステナビリティサービス ※4 TR：テクノロジーリスクサービス

本誌内 掲載 ページ	メンバー	事業部	職階	監査	金融	パブリック	グローバル	IPO	デジタル	FAAS ^{※1}	Forensics ^{※2}	CCaSS ^{※3}	TR ^{※4}	地区	海外駐在	業種・業界
12.13	 E. Hattori	第1事業部	シニア	◎			◎		●						●	化学
14.15	 M. Motohashi	第2事業部	パートナー	◎			◎	●	●						◎	テクノロジー
16.17	 T. Shigeno	第3事業部	マネージャー	◎			●	●								製造
18.19	 C. Wakabayashi	第4事業部	スタッフ	◎	●	●				●						製鉄業・鉄鋼業、学校、公的金融、自治体 など
20.21	 A. Kyotani	第5事業部	パートナー	◎			◎		◎							モビリティ（自動車）、不動産
22.23	 M. Hirakawa	金融事業部	スタッフ	●	◎											証券、信託銀行 など
24.25	 S. Kato	FAAS事業部	マネージャー	◎	●		●	●		◎		●				建設、不動産、製造、商社
26.27	 S. Takahashi	Technology Risk事業部	シニアマネージャー	●	◎		●		◎	●			◎			テクノロジー、銀行、アセットマネジメント
28	 T. Deguchi	イノベーション推進部 AIラボ	シニアマネージャー	●					◎							製造、製薬
29	 U. Arashida	イノベーション推進部 AIラボ	マネージャー	◎				●	◎							化学、テクノロジー
30	 S. Yamaguchi	EYストラテジー・アンド・ コンサルティング（株）	マネージャー	●	◎		◎			◎					●	金融（銀行、証券）
31	 Y. Kawaguchi	EY台湾事務所	シニアマネージャー	◎		●	◎	●	●	●	●	●			◎	建設、不動産
32.33	 T. Kashiwagi	金融事業部	シニア	◎	◎		◎		●	●					◎	銀行、証券、アセットマネジメント
32.33	 N. Kawashima	企業成長サポートセンター	シニア	◎	●		●	◎		◎						AI、広告、ゲーム、SaaS
32.33	 M. Ito	FAAS事業部	シニア	◎	●		●			◎				◎		製造、小売、外食
35	 H. Kinoshita	第2事業部	シニアマネージャー	◎	●	●	●	●	●							消費財、テクノロジー
35	 A. Okado	第3事業部	マネージャー	◎			●	◎	●							製造、建設、小売 など

Career Rank

キャリアランク(職階)

EY新日本では、主体的なキャリア設計を可能にするロードマップとして、5つのキャリアを設定しています。

キャリアに応じた役割を全うすることはもちろんですが、これからどのように成長していけるのかを常にイメージし続けることで、自身の成長を促し、高い専門性と人間性を身に付けたプロフェッショナルとして活躍してほしいと考えています。

各キャリアに
求められる役割

掲載メンバー

その他掲載メンバー

Staff

スタッフ

上司の指導の下、監査実務はもちろんのこと、会計・監査に関する基本知識を習得します。カウンセラーとのコミュニケーションを通じて、キャリア目標に必要な経験を身に付け成長していきます。スタッフの上の年次では、小規模クライアントの主査となることもあります。



C. Wakabayashi

2025年入社
第4事業部
スタッフ
P.18・19

Senior

シニア

大規模クライアントの補助者として主査を補助するとともに、中小規模のクライアントにおいては主査として、現場を統括します。高い監査能力、知識のほかに、主査としてクライアントと良好な関係を保つことやスタッフの指導・育成も重要です。



E. Hattori

2020年入社
第1事業部
シニア
P.12・13

Manager

マネージャー

大規模クライアントの主査として現場を統括します。大勢のシニア、スタッフの指導・育成やクライアントとの数多くの調整など、大規模クライアントならではの管理・調整能力も必要です。



U. Arashida

2016年入社
イノベーション推進部AIラボ
マネージャー
P.29

Senior manager

シニアマネージャー

複数のクライアントの監査業務全般を統括します。高度な専門的知識はもちろんのこと、高いレベルの業務管理能力、問題解決能力も必要となります。



T. Deguchi

2010年入社
イノベーション推進部AIラボ
シニアマネージャー
P.28

Partner

パートナー

法人の出資者であり、経営にも関与します。監査業務においては責任者として、クライアントに質の高いサービスを提供するために、高度な判断力が必要となります。



M. Motohashi

2007年入社
第2事業部
パートナー
P.14・15



M. Hirakawa
P.22・23



T. Kashiwagi
P.32・33



N. Kawashima
P.32・33



M. Ito
P.32・33



T. Shigeno
P.16・17



S. Kato
P.24・25



S. Yamaguchi
P.30



A. Okado
P.35



S. Takahashi
P.26・27



Y. Kawaguchi
P.31



H. Kinoshita
P.35



A. Kyotani
P.20・21

Career Paths

キャリアパス／キャリア形成

EY新日本では、監査業務のプロフェッショナルとしての成長を促進するだけでなく、個々の強みを生かした自立的なキャリア形成を支援しています。若いうちから国際的な視野を広げ、アドバイザリーや外部機関での経験を通じて、監査以外にも多様な経験を積むことができる環境を整えています。変化の激しいビジネス環境においても活躍できるヒューマンスキル（人間力）を持ったプロフェッショナルの育成に取り組んでいます。

幅広い監査業務での経験を経て広がる多様なキャリア展開

EY新日本は、あらゆるセクターの大規模から小規模のクライアントを抱えており、セクターフォーカスすることで高度なナレッジを蓄積しています。また、各事業部には複数のセクターがあり、どの事業部でも多様なセクターを担当する機会があります。各事業部においてIPOにも積極的に取り組んでおり、2021年から25年までの5年累計でトップクラスの実績とともに多くの若手メンバーが活躍しています。金融、サステナビリティ、デジタル、グローバルなプロジェクトなど、皆さんが興味を持つ幅広い経験を積むことができる組織編成となっています。これにより、実践的なスキルを身に付けるだけでなく、業界のトレンドやニーズを深く理解することが可能であり、真のプロフェッショナルになる環境が用意されています。

キャリアの途中では、海外駐在や財務会計アドバイザリーなどのアドバイザ

リー部門への異動、さらには外部機関への出向など、多様な経験を積む選択肢も用意されています。これにより、国際的な視野を広げ、さまざまな文化やビジネス慣習を学び、監査にとどまらずアドバイザリーのプロフェッショナルとしても成長できる環境が整っています。

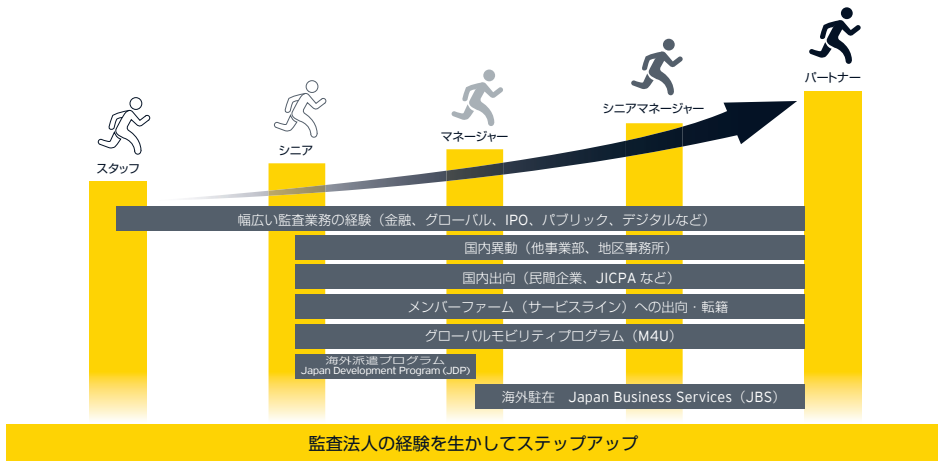
公認会計士としての可能性は大きく広がっています。EY新日本では、皆さんが最も輝けるフィールドで、一流のプロフェッショナルとして活躍できる環境が整っています。

自身のステージに合わせて受け身にならず、魅力的でチャレンジングな機会を追求し、自らのキャリアをオーダーメードで築いていくことを期待しています。

EY新日本であなたの未来を共に創造していきましょう。

EY新日本では、監査業務のプロフェッショナルとしての成長にとどまらず、個人のキャリア志向や強みを生かした多様なキャリアを実現できる環境が整備されています。

また、環境変化を強く生き抜くためのビジネスパーソンとしてのヒューマンスキル（人間力）を持ったプロフェッショナルの育成に本気で取り組んでいます。



クロスファンクショナル、グローバルでの経験を通じてプロフェッショナルとして成長できる環境



パートナーを目指すキャリアの魅力

- **監査・品質管理を軸とした幅広い専門性の深化**
監査・品質管理に関する専門性を磨き、多様なクライアント・業務経験を重ね、将来的にパートナーを目指せる環境
- **グローバル・外部企業出向を通じたビジネス理解の向上**
グローバル業務や外部企業への出向を通じて実務経験を重ね、企業の成長に貢献できる会計士を目指す
- **専門性と多様な経験を備えたプロフェッショナルへの成長**
高度な専門知識とリーダーシップ、人材育成を通じて、関係構築力を備えたプロフェッショナルへ成長できる

EYでは、パートナーを目指す過程で、監査・品質管理を軸とした専門性の深化に加え、グローバル業務や外部企業・海外オフィスへの出向を通じて、多様な業務経験を積み重ねます。幅広いクライアントや業務に携わる中で、専門性とビジネス理解を高め、クライアントのビジネスパートナーとして価値を提供できるプロフェッショナルへと成長を支援する環境があります。パートナーは、責任者として高度な判断力を発揮し、クライアントやさまざまなステークホルダーと信頼関係を築きながら、質の高いサービスを提供する存在です。パートナーへの道のりは決して平坦ではありませんが、「出る杭を伸ばす」文化のもと、一人ひとりが強みを生かしながら挑戦できる環境が整っています。私たちは、幅広い視野を持つプロフェッショナル集団として互いに切磋琢磨（せっさたくま）し、変化を恐れず挑戦し続けることで、クライアントの課題、その先にある社会の課題の解決に向けて、ステークホルダーとともに未来を切りひらいていきます。

グローバル



グローバル業務

- **多国籍メンバーと働くグローバルな実務経験**
海外のEYメンバーファームで、多様な価値観に触れながらグローバル企業を支援
- **世界約40カ国に広がる海外駐在のチャンス**
さまざまな国・地域で、国境を越えたキャリアに挑戦できる
- **海外現地での実践的な業務・ビジネス経験**
現地監査チームの一員として働き、関連する非監査業務やビジネス開発に関する業務に携わる機会がある
- **海外挑戦を支える充実した育成・サポート体制**
英語研修・海外派遣・駐在プログラムを通じて、グローバル人材としての成長を支援

EYでは、所属に関わらずグローバルな業務に挑戦できる環境が整っており、海外のEYメンバーファームでの監査経験や多国籍メンバーとの協働を通じて、多様な価値観に触れながら実務力を高められます。さらに、英語研修や海外派遣・駐在プログラムなど、海外挑戦を支えるサポート体制により、グローバルに活躍したいメンバーを支援しています。

アドバイザリー



アドバイザリー領域で広がる経験

- **監査領域にとどまらない多様な知識、経験の習得**
財務会計アドバイザリー、サステナビリティ保証業務、デジタル戦略など幅広い分野を経験できる
- **キャリアの可能性を広げる法人内モビリティ制度**
一定期間、法人内の他部門へ異動することで分野を超えた経験を積み、将来の選択肢を広げる
- **会計士としての総合的なスキル強化**
監査以外の知識・経験を取り入れることで、専門性と対応力を高め、付加価値の高いサービスを提供できる人材へ
- **EY内での他のサービスラインへの出向**
他サービスラインとの交流を通じて、各分野のプロフェッショナルとのネットワークを構築する

EYでは、他部門での業務経験やサービスライン間の一定期間の異動を通じて、監査以外の幅広い分野の知識・スキルを身に付けることができます。財務、サステナビリティ、不正対応、デジタル領域などの専門性を高めながら、ネットワークを広げ、クライアントに対してより付加価値の高い総合的なサービスを提供できる人材へ成長できます。

外部機関への出向



外部機関への出向で得られる専門性

- **日本を代表する外部企業への出向**
財務諸表作成側の立場で監査の理解を深化
- **公認会計士協会・財務会計基準機構などへの出向**
会計基準や監査制度の策定・運営に携わり、専門知識と業界視点を深める
- **クライアント理解と提案力の向上**
ビジネスの現場を理解し、提案の質と実践的なアドバイスを高める
- **専門性の強化**
会計のプロフェッショナルとしての知識と視野を広げる

EY内の異なるサービスラインの経験にとどまらず、外部企業への出向を通じて幅広い経験を積むことができます。外部企業での経験は、ビジネスに対する理解を深める重要な機会となり、業界動向やビジネスモデルへの理解につながります。実際の現場で課題やニーズを把握することで、クライアントに対してより的確なアドバイスを提供できる力を高めていきます。さらに、公認会計士協会や財務会計基準機構への出向を通じて専門性を高め、プロフェッショナルとしての知識・経験を高めることでクライアントに対して高品質なサービスを提供することができます。

EY Alumni (アラムナイ) の魅力

- **EYでつながった人と、これからもつながり続けられるコミュニティ**
現役・退職後を問わず、EYで築いた関係が続くネットワークがある
- **フィールドを変えても成長を支える土台**
EYで積み重ねた経験や実績を土台に、コンサルタント・経営者・社外役員・独立開業・公的機関・事業会社など、多様な道で活躍の幅を広げている
- **キャリアを通じて生き続ける“人とのつながり”**
EYで得た信頼関係は、将来にわたる大切な財産になる
- **Alumniカムバック制度** ※一定条件あり
EYで培った経験に加え、外部で得た知見や経験を生かし、再びEYでキャリアを築くことができる

EY Alumniは、現在EYに在籍しているメンバーや、かつてEYでキャリアを築いたメンバーが、将来につながる人脈と機会を広げるネットワークです。EYで培った経験を基に成長を続け、独立・社外役員・公的機関など多様な分野で活躍しています。さらに、カムバック制度により、外部で培った経験を生かし再びEYでキャリアに挑戦することも可能です。

チャレンジ精神でより良い社会を実現する

EYは、最先端の知見とテクノロジーを駆使し、グローバルな視点で社会に新たな価値を創造します。より良い社会の実現に向けて、私たちはチャレンジ精神あふれるプロフェッショナルを育てることを何よりも大切にしています。あなたの可能性と一緒に広げていきましょう。



成長への挑戦、 EYで描くキャリアの可能性

T. Fukata

1993年入社
経営専務理事 CFO／経営管理本部長

1993年にEY新日本(当時は太田昭
和監査法人)に入社、国際部で監査、
デューデリジェンス、バリュエーション
業務、NY駐在など、さまざまな業務を
経験。その後、外資系証券会社に転職、
社内会計士として勤務。EYに復職後は
IFRS導入支援などのアドバイザリー業
務の他米国SEC登録の大手金融機関の
監査責任者、FAASリーダーを務める。ア
ドバイザリーサービス本部長を経て現
職。休日の一歩の楽しみはゴルフ。

時代と共に進化する仕事

会計監査の仕事の魅力は、その多様性と成長の機会にあります。単なる数字のチェックではなく、企業の価値を多角的に理解し、支援できる仕事です。私たちは、金融機関、製造業、小売業など、さまざまな業界の企業と向き合います。それぞれの業界には独自の特性や課題があり、その本質を深く理解できるのが会計監査の醍醐味(だいごみ)です。監査を通じて、企業のビジネスモデル、組織体制、内部統制、ガバナンスなど、企業経営の全体像を学ぶことができます。法務、税務など、関連する多様な専門知識も同時に習得できます。監査業務自体も進化しています。特に昨今、ITやESG、気候変動といったサステナビリティ情報の重要性が急速に高まっています。企業価値はもはや売上や利益だけでは測れません。脱炭素への取り組み、ダイバーシティ、人権、テクノロジーリスクなど、新たな視点から企業を評価する時代になっています。会計監査は公認会計士にしかできない業務です。私たちは、それを強みに、会計監査のプロフェッショナルとして、時代の変化を敏感に捉え、新たな専門性を常に広げています。

無限に広がるキャリアパス

EYでは会計監査の仕事を起点に、さまざまなキャリアパスの可能性があります。EYには、監査・アドバイザリーサービスのアシュアランスの他、コンサルティング、税務、M&A関連の戦略・トランザクションの4つの主要なサービスラインがあり、監査業務を通じて習得したさまざまな専門性は、堅固な支えになります。また、EYはグローバルネットワークも強みとしているので、グローバルな活躍の場も豊富です。日本企業のグローバル展開に伴い、海外での業務機会も増えています。国内にいても世界中のプロフェッショナルと協業できます。さらに、EYを飛び出して外の世界に挑戦してみた

と思うなら、一般企業の経理部門などで、財務諸表の作成者側になって専門性を生かしても、あるいはCEO、CFOになってもいいでしょう。また、監査業務は監査や会計といった基準に準拠しているかを判断する業務なので、ルールそのものをつくったり、変えていったりするために、行政官や政治家になるといった道もあります。自ら起業してIPOを目指す人もいますし、独立して個人事業主となる会計士もいます。大切なのは、どのような道を選ぶにしても、監査の知識と経験を土台として、常に新しいことにチャレンジする姿勢を持ち続けることです。そうすることで、より深みのある会計士として成長できます。EYでは、そうした姿勢を評価し、支援する風土があります。

人を大切にする文化

先ほど、EYで培った専門知識をもとに一般企業の社内会計士になる道もあると述べました。それはまさに私自身が一度は選択したことです。それでも私は結局、EYに戻ってきました。それは、EYで仕事をする面白さを再認識したからで、EYの風土の魅力として、その点について触れておきたいと思います。外資系の証券会社だったこともあり、私の転職先では、それぞれの専門家が自分の領域に特化して仕事をしていました。会計士は会計、税理士は税務、営業係は営業というように、役割分担が明確です。確かに専門性を極められる環境ではありましたが、逆に言えば、その領域以外のことには関われません。一方、EYでは、会計監査という中核がありながらも、常に新しいものに触れられ、刺激に満ちています。世界レベルでさまざまな専門性を持った人材に出会うことができ、他社事例も豊富で、常にトレーニングを受けることができる環境です。さらには、公認会計士としてさまざまなクライアントと接しながら営業を

して、業務受注、契約処理、業務デリバリー、人材採用、育成、評価、その他、一見したところでは会計士の仕事とは関連性のないようなことにまで携わることができ、それらはすべて会計士としても、人としても、成長の糧になります。もう一つ、強調しておきたいEYの大きな特徴は、人を育てる文化があることです。転職してきた人からも、EYには教え合う文化があるという声をよく聞きます。EYでは、多種多様な経験を有するプロフェッショナルがお互いを尊重しながら、業務を通じて日々成長しています。

一人一人が輝く組織を目指して

今やEYはグローバルベースで約40万人、監査法人も6,000人を超える規模となりました。監査そのものも、業務量が以前とは比べものにならないくらい増え、複雑化しています。そうすると、膨大な監査業務に溺れてしまうのではないかと懸念もあるかもしれません。私たちは、そのようなスケールデメリットに陥ることなく、メンバー一人一人が生き生きと働ける組織であり続けるように、今後は標準化、シンプル化を一層推し進めるとともに、AIなどのテクノロジーを活用して時間を創出します。そこで手にした時間は自分の成長のために使ってください。加えて、さまざまな経験が積めるように監査、ファイナンス、サステナビリティといったキャリアフレームワークを整理して見える化し、必要な研修・トレーニングを充実させて、多様なキャリアを有する人材を増やしていきます。EYには「Building a better working world 〜より良い社会の構築を目指して」というパーパス(存在意義)があります。それを実現するために、私たちは、チャレンジ精神が旺盛で、より良い社会に世の中を変えていけるリーダーを常に輩出する組織にしていきたいと思っています。EY新日本への入社を目指す皆さん、ぜひ一緒に成長していきましょう。

メンバー紹介

E.Hattori

2020年入社
第1事業部
シニア



個人の夢と挑戦を尊重する柔軟な文化

国税専門官から会計士へ

私は大学で会計学を専攻していましたが、当初、会計士という職業は高いハードルに感じられ、まずは国税専門官を目指しました。東京国税局で1年勤務した後、やはり会計士になりたいという思いが強くなり、改めて勉強して資格を取得しました。EY新日本への入社を決めたのは、リクルーターの方の穏やかな雰囲気自分が合っていると感じたからです。入社後は第1事業部の化学セクターに配属され、産業ガスを扱う大手上場企業の監査に主に携わりました。入社時はちょうどコロナ禍でリモートワークとなりましたが、その中でも和やかな雰囲気が保たれていて、不安になることはありませんでした。現

在はシニアとして、現場の中心で作業をリードしています。シニアになってからは、スタッフとマネージャーの橋渡しをしながら、常に先を読んで行動し、率先してクライアントとコミュニケーションを取ることが求められるようになりました。責任が重くなった分、自分の成長も感じています。

周囲の支援を得て ニューヨークのEYに入社

私は入社3年目、配偶者のニューヨーク駐在に同行するため、EY新日本をいったん退職、ニューヨークのEYに入社しています。その際は、上司や人事の方々がさまざまな可能性を模索し、履歴

書の添削や面接の練習なども手伝ってくださいました。ニューヨークでの1年9カ月の経験で、特に英語力が向上し、海外とのコミュニケーションについてそれまで抱いていた苦手意識が払拭されたのは、現在の仕事に大いに役に立っています。また、現地の上司から厳しいタイムライン管理を学び、自分の責任範囲をしっかりと意識して仕事を進める力が身に付きました。監査においても、基礎情報の検証方法などで、日本とは異なる視点を学ぶことができました。帰国後も元のチームに戻れるよう配慮していただき、メンバー一人一人を大切にしているEYの企業文化を実感しています。

個を大切にしている企業文化は、女性の働きやすさにも反映されています。周囲にも育児中で時短勤務をしている女性の管理職が多くおり、責任ある役割を果たしています。女性がプロフェッショナルとして仕事を続けられる環境が確立されており、自分のキャリアを考えるにあたって大きな励みになっています。

英語力と専門知識でさらに 貢献したい

海外勤務を経て、各国のチームとコミュニケーションを取って仕事をして、クライアントとEYに貢献できることにますます喜びを感じるようになりました。海外出張の機会を与えられることもあり、常に前向きに仕事に取り組んでいます。



目下の課題は、さらに深いディスカッションができるように、英語力を高めていくことです。EYには英語研修をはじめ、自己研さんを支援する制度が充実しているので心強いです。将来的には再び海外で働きたい気持ちもあります。上司から「シニアとマネージャーでは異なる視点が得られる」と聞き、職階が上がった際の新たな経験にも期待しています。また、セクターの専門能力を示す認定制度もあるので、それも活用して、セクター特有の知識を身に付け、複雑な会計処理や専門的な相談に、よりの確に対応できるようになりたいと思っています。特に化学セクターのクライアントは、原料を世界各地から輸入して、大規模かつグローバルに展開しているため、英語力に加えて、業界の専門知識があれば、より大きな価値が提供できると考えています。『Shape the future with confidence』のメッセージを自分にも向けて、自信を持って未来を形づくることのできるメンバーになることが目標です。

CAREER

- 2020年
入社。
第1事業部において、化学系上場企業およびその子会社の監査業務に取り組む。IFRS認定の取得やデジタル監査に積極的に関わるなどスキルアップに努めた。
- 2023年
シニア昇格。
配偶者がニューヨークのEYへ駐在となったため、EY新日本を一度退社。直接ニューヨークのEYに応募し入社。シニアインチャージとして日本企業の海外子会社の監査に従事。
- 2024年
配偶者の駐在期間が終了したため、EY新日本に再入社。もともといた監査チームに戻り、引き続き化学セクターエンゲージメントを担う。ニューヨークでの経験を生かし、海外関連業務に多く携わる。

MESSAGE

EYでお会いできることを
楽しみにしております



第1事業部

IFRS適用企業が多く、化学、製造、テクノロジー、総合商社などのセクターをカバーし、サステナビリティが身近なビジネスが多く集まっています。グローバル展開する大規模クライアントはもちろん、中小規模も含む多様な業種が経験できます。また、保証業務のみならず、アドバイザリー業務も経験するチャンスがあります。技術革新が早く、海外事業展開やスタートアップ企業も多い業界です。

メンバー紹介

M.Motohashi

2007年入社
第2事業部
パートナー



成長し続けることが、 さらなる価値向上につながる

ステップアップの機会は 用意されている

入社以来のキャリアを振り返って抱くのは、節目ごとに新たな挑戦の機会に恵まれ、それが自身の成長につながったという思いです。特に入社9年目にオランダのEYアムステルダムに駐在したことは、大きなステップアップにつながりました。私のキャリアにおいて非常に重要な時間だったことは間違いありません。オランダはヨーロッパ進出の足がかりとして、日系企業も進出が進んでいます。私は主にそれら日系企業の監査業務に従事。会計基準、監査基準という世界共通言語に従いつつも、ビジネスやコミュニケーションに対する

文化の違いなどに戸惑いながら取り組んだことで、視野は大きく広がりました。こうした経験により自身の知見も広がったことで、帰国後にグローバル企業とも自信を持って、コミュニケーションできるようになりました。海外子会社のガバナンスに課題を感じているクライアントが少なくない中、こうした経験は、プロフェッショナルとしてクライアントに提供できる価値を高めることに繋がったと感じています。このようなステップアップの機会を得られたことに感謝しています。

若手の育成も大きなやりがい

私にとって監査の仕事のやりがいとは、財務諸表

の適正性を保証することにとどまらず、クライアントや資本市場からの高い期待に向き合い続ける中で、自分自身もチームも成長できる点にあります。財務諸表の適正性に対して公認会計士として意見を表明することはもちろんですが、その過程で企業の経営課題や内部管理体制、ガバナンス、将来のリスクに向き合い、より健全な企業活動を支える役割があると感じています。特にグローバル企業や業界をリードする企業、成長性の高い企業の監査では、昨今のテクノロジーの進化も相まって変化のスピードも速く、会計処理、開示、内部統制、ガバナンスなど、求められる水準も非常に高くなります。その期待に応えようとする過程で、専門性だけでなく、判断力、説明力、関係者を巻き込む力が鍛えられると感じています。厳しい指摘を行う仕事もありますが、その指摘がクライアントの内部統制やガバナンスの改善につながると、仕事の醍醐味（だいごみ）が得られます。



また、職階に応じてクライアントからの期待が変わってくることも実感しました。スタッフ時代は目の前の業務に集中し、昇格するにつれてクライアントとコミュニケーションをとる機会が増えていき、パートナーとなった今はCFOや監査役といった経営陣と直接対話しています。若手メンバーが監査経験を積み、自信を持って成長していく姿を見ることも大きなやりがいです。監査品質は一人の力ではなく、チーム全体の力で支えられるものですので、個々のメンバーが自分の仕事の意義を感じられる環境をつくることで、監査の品質の向上やクライアントからの信頼の向上につなげていくこともパートナーならではの喜びです。

最後に求められるのは人の力

監査の現場ではAIやテクノロジーの活用が急速に進展しています。テクノロジーは業務を飛躍的に高度化・効率化し、品質とスピードを高めますが、だからこそ重要なのは最終的な判断を人が担うという点です。クライアントへの深い理解と高度な専門性に裏付けられた適切な判断を下すことが求められます。不確実性の高い状況においても自らの専門性を磨き続け、確信をもって判断を下す姿勢こそがクライアントの信頼を築きます。これこそが、私の考えるトラステッド・パートナーの在り方です。

CAREER

- 2007年
入社。
MNC部(当時)に配属され、製造業、卸売業、テクノロジー企業などの監査業務に従事。
- 2011年
シニア昇格。
上場企業などの主査を担当。非監査業務や執筆活動にも携わる。
- 2016年10月
マネージャー昇格。
EYアムステルダム(オランダ)に3年間駐在。現地では主に日系企業の監査業務や事業開発に従事。
- 2021年
シニアマネージャー昇格。
海外展開する企業の統括業務のほか、デジタル、サステナビリティ領域のプロジェクトに参画。
- 2025年
パートナー昇格。
クライアントの経営陣や監査役などとのコミュニケーションを通じて、監査品質を高めていくことに力を注ぐ。

M.Motohashi

2007年入社
第2事業部
パートナー

公認会計士としての基礎を固めるには大手監査法人が最適と考え、EY新日本を志望。充実したグローバルネットワークも入社の決め手となった。入社後はさまざまな規模や業種の企業の監査業務に加え、非監査業務や執筆活動にも幅広く従事。3年間のオランダ駐在では、現地での監査業務や事業開発にも携わった。最近3人目の子どもが生まれたこともあり、オフタイムは家族との時間を楽しんでいる。

MESSAGE

EYで自分らしい
挑戦を!



第2事業部

✕ ディア系やエンターテインメント系、テクノロジーセクター、消費財など幅広い企業に監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。国内企業だけでなく、海外企業の監査も手がけています。特に海外展開する企業は海外子会社も多く、国内外にまたがる複雑な会計監査論点に関与する機会が多くあります。

メンバー紹介

T.Shigeno

2013年入社
第3事業部
マネージャー



人から人へ、良い連鎖が生まれる風土が魅力

刺激を受けながら成長

会計士を目指したのは、高校生の時に会計士の先輩が学校に来てくれたことがきっかけです。入社後は学生非常勤として第3事業部に配属され、製造業やテクノロジー業などのさまざまな業種の監査業務に携わりました。シニアに昇格した2017年、担当クライアントの海外子会社買収案件で米国への出張を経験しました。それまで英語をほとんど使わずに仕事をしてきた私にとって、この出張は大きな転機になりました。先輩が流ちょうに英語でコミュニケーションを取る姿を見て、自分の英語力不足を痛感したのです。このままではクライアントサービスもチームマネジメントも十分にできないと感じ

じ、その後は英語力向上にも力を入れました。社内の語学研さんプログラムに積極的に参加し、フィリピンでの1カ月間の語学研修や社外の語学学校との提携プログラムなど、さまざまな機会を活用しました。2024年には米国の公認会計士の資格（USCPA）も取得しました。現在はマネージャーとして複数の上場企業や上場準備会社の監査を担当、現場責任者を務めるとともに、若手の育成にも力を入れています。

人に恵まれたことが支えに

EYの最大の魅力は「人」だと感じています。私にとって特に魅力と思うのは、私の課題を的確に指摘し、アドバイスをくれる先輩方の存在です。例

えば、ある先輩は、大勢の前での発言が控えめになりがちな私の傾向に気付き、もっと堂々と発言するように促してくれました。周りの人を巻き込むために、粘り強く、本気の姿勢で業務に臨むことが大切だということも先輩方から学びました。個々の価値観や背景を尊重し、互いの違いをポジティブに受け入れながら協業するカルチャーがあることも、EYの素晴らしい点です。個人の状況に最大限配慮した働き方を尊重するカルチャーが根付いていると感じますし、若手マネージャーを対象にしたプログラムであるFuture Genで、バックグラウンドが異なるコンサルティング、税務、トランザクションなど他のサービスラインのメンバーと協働した経験からもそのように感じています。人との出会いが次の展開につながっていく、そんな環境がEYにはあります。一つの出会いを大切に、期待に応え、それがまた次の機会につながっていき、成長の機会を与えてもらっていることに、大変感謝しています。

経験とともに面白さが増していく

職階が変わるにつれて、業務内容は変わってきますが、コミュニケーションによる信頼関係がベースだと感じます。誰にいつ何をどのように伝えたら良いか、相手はなぜそれを今伝えてくれているのかなど、クライアントともチームとも対話をしっかりと重ねていくことが重要だと感じています。その対話の積み重ねから信頼関係が生まれ、クライアントやチームメンバーとより良い関係が構築できると感じています。



クライアントとの対話で意識していることは、数字の背景にある経営判断や課題を理解することで、長期的な視点を持って向き合うことを大切にしています。チームメンバーに対して大切にしているのは、こまめなコミュニケーションです。早めに課題を共有し、メンバーが困っていないかを確認します。私自身の経験から、報告しづらい状況にあるメンバーほど早めの支援が必要と感じており、積極的に声をかけるようにしています。監査は一つのプロジェクトであり、先を見越した先手のプロジェクトマネジメントが必須です。これらは経験を積むにつれて違った角度から見ることができるようになり、それにも面白さを感じます。監査はチームで行うもの。自らが良い働きかけをして、チームに良い影響が生まれればと思っています。だからこそ、まずは自らが進んで動くことを心がけています。クライアントやチームメンバーに対して真摯（しんしん）に向き合い、一緒に仕事をして良かったと思ってもらえるように、これからも日々の行動を意識していきたいと思っています。

MESSAGE

EYで
共に成長
しましょ



第3事業部

小売業、外食業、製造業などの企業を幅広くカバーしています。生活に身近なビジネス、商材を扱う企業の多いことが特徴で、棚卸立会など、公認会計士としての基礎的な業務を学ぶ上でも適しているといえます。大企業だけでなく、中小・中堅企業、IPOが多いことも特徴です。

CAREER

- 2013年
学生非常勤として入社。
幅広い業種に関わりたいという希望から、国内監査業務を志望。さまざまな規模の企業を担当、幅広い視点を養う。
- 2017年
シニア昇格。
スタッフ時代から担当させてもらっていたクライアントにインチャージとして関わる。新たに上場準備会社も担当。
- 2021年
マネージャー昇格。
製造セクターのワーキンググループメンバーとして活動。
- 2022年
EY Japanのタウンホールミーティングの企画・運営に携わる。「経営層に現場の声を伝える」をコンセプトに有志メンバーで取り組む。
- 2023年
若手マネージャーを対象にしたプログラムであるFuture Genに参加。さまざまなサービスラインの参加者とコラボレーションする機会に恵まれ、EYの魅力を再認識。
- 2024年
USCPA取得。
現在は新たに製造業のクライアントと上場準備会社も担当。

メンバー紹介

C.Wakabayashi

2025年入社
第4事業部
スタッフ



専門性を磨き、 社会の安定と信頼を支えていく

公共性の高い領域での貢献

銀行員としてキャリアをスタートさせた私が公認会計士試験合格後にEY新日本に身を転じたのは、公共性の高い組織や社会基盤を支える企業に対して専門的な立場で価値提供を行うには、パブリックセクターで豊富な実績と高い専門性を誇るEY新日本が最も適していると考えたためでした。

ライフサイエンスや電力、ガス、製薬、ITなど多様な業種の上場企業の監査業務に携われる点は、こうした領域を担当する組織ならではの特徴です。監査に加え、アドバイザリーやIPO関連業務に関与する機会も見られ、公共性の高い分

野に従事しながら、社会基盤を支える企業の監査に携われる点が、第4事業部における特徴の一つであり、将来的なキャリアの選択肢の広がりにつながると考えました。

地域や社会がより良いものになることを願う

現在私は主に、公的金融機関や公共放送機関、地方自治体、学校法人、公益財団法人等、社会インフラの運営を担う組織に関与しています。これらの組織は公的資金や公共資源を背景に運営されているため、強固なガバナンスや透明性の確保が求められるとともに、社会の安定と信頼を支え



る基盤として重要な役割を担っています。

監査を通じて、社会に不可欠な公的機関や社会インフラを担う組織の活動に関われる点に魅力を感じています。特に自治体に対する包括外部監査はアドバイザリーに近い側面もあり、運営の改善に向けた視点に触れる中で、自身の視野が広がっていることを実感しています。前職の地方銀行では営利を追求する法人のお客さまを担当していたため、このような経験はEY新日本に入社してから特に新鮮に感じています。

一方、鉱業・金属セクターでの業務も非常に興味深く、棚卸立会や往査の機会に製造現場に足を運ぶことで、普段は目にするのことができない生産工程や事業の実態に触れることができます。事業への理解を深めることは監査業務において重要で

あり、原料がどのように仕入れられ、どのような工程を経て製品化されるのかといった点を自ら確認することで、より実態に即した監査につながっていると感じています。パブリック領域にとどまらず、こうした幅広い経験ができる点も魅力です。

監査で培う力を、 社会課題の解決へつなげる

今後も監査業務を通じて経験を積み重ね、監査品質の向上に資する判断・業務遂行を行えるよう基礎を固めていきたいと考えています。その上で、監査で培った知見を生かし、パブリック領域におけるアドバイザリー業務にも積極的に関与し、専門性の幅を広げていきたいと考えています。

また、近年は脱炭素化や地政学リスクの高まりなどを背景に、サステナビリティ領域を中心とした非財務情報への対応の重要性が高まっていると実感しています。これらの取り組みは主に企業を中心に進展している分野ではありますが、私自身も関心を持っており、将来的にはこうしたテーマについても理解を深めていきたいと考えています。

さらに、大学で農業を専攻していたことから一

次産業にも関心があり、将来的には会計・ファイナンスの知見を生かしてこの分野での価値提供を行い、社会全体の持続的な発展に貢献したいという思いも持っています。

EY新日本では、こうした多様な領域に関わる機会や、個々の志向に応じたキャリアの広がりがある点にも魅力を感じています。今後は監査を軸に経験を積みながら、自身の専門性を社会課題の解決にどのようにつなげていけるかを意識し、長期的にキャリアを築いていきたいと考えています。

かつて地域社会の発展に貢献したいとの思いで地方銀行への道を選んだ私でしたが、その志はEY新日本においても変わっていません。

CAREER

2025年
入社。
第4事業部に配属され、ガバメント・パブリックセクターおよび鉱業・金属セクターで監査業務に従事。

MESSAGE

自分の理由を大切に
EYと一緒に働きましょう！



第4事業部

ライフサイエンステクノロジー（製薬・医療／精密機器など）、エネルギー（電力・ガス・石油など）、ガバメント・パブリック（地方自治体・学校・病院など）、鉱業・金属（製鉄など）のセクターにより構成され、多様な業種に監査およびアドバイザリーサービスを提供しています。グローバルに展開する大手企業、スタートアップ企業、そして地域の重要なインフラを支える非営利組織など、規模やマーケットが多岐にわたるクライアントに対して、多様性と専門性の両方を追求し、サービスを提供しています。

メンバー紹介

A.Kyotani

2005年入社
第5事業部
パートナー



不透明な時代だからこそ、 クライアントに寄り添って進む

正面から向き合うことも

監査業務はサービス業です。会計数字が合っていれば良いというわけではありません。クライアントが真に必要としているものは何かについて数字を通じて読み取り、最適なアドバイスを提供することが求められているからです。クライアントと一緒に会計数字の適正性を検証していくプロセスは楽しいものではありませんが、状況によってはクライアントが欲している結果とは違う答えを出すこともありますし、難しい指摘を行う場面もあります。そういう時でも正面から受け止めていただけのために、常に誠実に向き合い、真摯(しんし)な対応を重ねておく必要があります。

「あなたがそう言うのなら」とクライアントが耳を傾けてくださる時、公認会計士として確かな信頼を得ていることを実感すると同時に、クライアントも自分も一緒に成長している喜びを感じます。

子育てとキャリアを両立できる環境

入社以来これまで多様な挑戦を重ねてきました。スタッフからシニアに昇格した際は現場の責任者を任せられ、マネージャーに昇格してからは大きなチームを任せつつ後輩を育成するという管理職としてのミッションに挑みました。シニアマネージャー昇格後はパートナーへの昇格を見

据えながら、クライアントの経営陣と交渉ことを進めるような機会が増えました。そうした中で転機となったのはやはりシニア時代に2人の子どもが誕生したことです。女性活躍推進法が施行されるずっと以前のことで、社会的に子育てしながら働く女性のための環境が整っているとは言い難い時代ではあったものの、EY新日本は時短勤務やベビーシッター利用料補助等の制度が充実していたことが大きな支えとなりました。加えてEY新日本のカルチャーとして子育てしながら働く女性を応援しようとする姿勢が根付いており、チームの仲間の支援のもとで業務を継続することができました。もちろん出産・育児がキャリア形成に影響するようなことはなく、私自身、マネージャーに昇格したのは時短勤務制度利用中のことでした。今は私がパートナーとして後輩の女性たちを応援する立場にあります。働きながら子育てする大変さを身に染みて知っていますから、一緒にラン



チする機会をつくってお話を聞く等、困りごとがあったら気軽に助けを求められる空気づくりに努めています。仮にキャリアが一時的に途切れたとしても再開するハードルが低いのが公認会計士という職業の魅力です。ぜひ後輩の皆さんの力になってあげたいと思っています。

将来はどんな色にも染められる

先行きが見通せない不透明な時代だからこそ私たち公認会計士には、クライアントに寄り添い、誠実に向き合いながら、その未来と一緒につくっていくことが求められています。EYの「Shape the future with confidence」というメッセージはあらゆる人、国、そして世界のFutureを形づくることを意味する、とてもEYらしい言葉だと感じています。私自身、これからも「my future」の実現に向けて努力を続けていく考えです。公認会計士としてのスタートは同じであっても、さまざまな挑戦が可能なEY新日本では、自身のキャリアの形を自由に描くことができる環境があり、その方向性を途中で見直しながら歩んでいくことも期待されます。これからスタートを切る皆さんも、ぜひEY新日本で一人一人の「my future」を見つけていただけたらうれしく思います。

CAREER

- 2005年
入社。
国際部(当時)に配属され、大手自動車メーカーの監査業務に従事。
- 2008年
シニア昇格。
引き続き大手自動車メーカーの監査業務に携わり、上場子会社の主査も担当。
- 2011年
第1子が誕生。3年後に第2子も誕生し、仕事と子育ての両立を経験。
- 2017年
マネージャー昇格。
新たに大手不動産デベロッパーも担当する。
- 2021年
シニアマネージャー昇格。
デジタル戦略部も兼務し、デジタルリーダー育成プログラムを担当。
- 2025年
パートナー昇格。

A.Kyotani

2005年入社
第5事業部
パートナー

父の仕事の関係で海外生活を経験した際、監査法人は日系企業が世界に進出する力になると知って公認会計士を志望することに。英語を使って仕事がしたいとの思いから、グローバルに活躍の場が広がるEY新日本を志す。大手監査法人の中で、女性活躍の推進に積極的に取り組んでいると感じたことも決め手となった。中学生の頃からミュージカル鑑賞を続けており、今も週末は劇場に足を運ぶ。舞台に没頭することが新たなパワーの源泉に。

MESSAGE

EYで
お待ちしております!



第5事業部

自動車、不動産、建設、旅客と4つのセクター(業種)で構成されています。1つのセクターで業界特有の専門性を突き詰めることもできますし、セクターをまたいで複数の業種を経験することもできます。各セクターの専門性が高いことから、業界ごとのナレッジ活動を通じて知見と経験が蓄積されていることも特徴です。

メンバー紹介

M.Hirakawa

2023年入社
金融事業部
スタッフ



あたたかい目で「出る杭を伸ばす」

人の魅力に引かれて入社

大学3年生の時に学生非常勤として入社しました。EYを選んだ最大の理由は、就職活動中に出会った方々の魅力で、特に影響を受けたのは、現在の所属チームの女性マネージャーです。その方の前向きで誠実かつプロアクティブな姿勢に憧れを抱き、「私もこの方のようにになりたい」と強く思いました。また、その方に20名近くのチームメンバーを紹介していただき、その全員が素晴らしい人柄だったことも大きな決め手となりました。金融事業部を希望したのは、さまざまな業界との接点を通して、幅広く知識と経験が積めると思ったからです。

早くから仕事を任される手応え

私は入社以来、大手金融機関グループの監査を担当するチームに所属し、主に固定資産などの科目を中心に監査を学んでいます。また、銀行特有の自己査定監査も担当し、金融監査ならではの専門性の高い業務にやりがいを感じています。常勤にあがり、仕事の範囲は大きく広がり、自己査定監査に関しても徐々に難しい案件も任されるようになりました。また、監査の一連の流れを取りまとめる役割のある総括チームにも所属し、さらに、グループ子会社の初年度監査も担当することになりました。特に印象に残っている経験は、グループ子会社での税務関連の業務です。私自身、税務は得意

分野ではありませんでしたが、クライアントに対して会計基準や処理方法を丁寧に説明する必要があり、大きなチャレンジとなりました。経験豊富な方々の前で、緊張しながらも自分なりに工夫して説明した結果、「説明してもらってクリアになった。」と言ってくれたことは、本当にうれしかったです。

リクルート業務も担当し、金融事業部の仕事の面白さを伝えるイベントの責任者も務めました。チームやセクターの垣根を越え、延べ30名以上の同期や先輩方にご協力いただき、パネルディスカッションや座談会を企画・実施することができました。参加者からも好評で、このイベントがきっかけで入社したという後輩も迎えることになり、どれかの決断のきっかけになれたことがうれしく、頑張った良かったと心から思いました。また、イベントを通して、チームやセクターを超えたつながりに日々支えられているということを実感し、縦のつながりだけではなく、斜めや横のつながりの強さもEYの魅力であると改めて感じました。

挑戦する若手を支援する姿勢

EY新日本の「出る杭を伸ばす」文化は、自分の経験を通して実感しています。例えば、自己査定監査で難度の高い案件に挑戦したいと手を挙げた



際、励ましの言葉と共に任せていただきました。同様に、常勤1年目にリクルートイベントの責任者をやってみないかと声をかけられた時も、思い切って引き受けると、決して任せっきりにせず、サポートをいただきながら成功させることができました。一つ一つの経験の中で、性別や職階問わず輝ける環境があることや、若手の頑張りをあたたかく支援してくださる姿勢があることもまた、EY新日本の大きな魅力だと感じました。この恵まれた環境で、これからも貪欲にチャレンジし、自分自身も成長しながら、周囲に貢献していきたいと思います。そして最終的には、私が就職活動中に素晴らしい女性マネージャーに出会って刺激を受けたように、「女性が活躍できる組織」であることを多くの方に知っていただける存在になり、一人でも多くの就活生を勇気づけられたらと考えています。

CAREER

2023年

大学3年生で公認会計士試験に合格、学生非常勤として入社。メガバンクチームの一員として、固定資産系の科目や人件費関連など、金融専門の科目を扱うチームではないところからスタート。リクルート業務にも携わる。

2024年

4月に常勤に切り替え。引き続き、固定資産系のチームで監査の経験を積みながら、自己査定監査を通じて金融監査の魅力を感じ始める。リクルート業務では、「金融入門」という若手中心の金融事業部リクルートイベントの責任者を務める。7月からは固定資産系チームに加え、監査業務の一連の流れを取りまとめる総括チームと、新設されたグループ子会社およびAUP(非監査業務)チームを兼務し、初めての繁忙期を迎える。

2025年

ローテーションでメガ証券チームへ異動し、修了考査の勉強と並行してデリバティブや信託勘定など金融特有の論点を習得。併せて初主査として、監査計画から進捗管理、クライアント対応まで一貫して完遂した。銀行・証券・信託にわたる広範な知見と、現場責任者としての実務経験を積んでいる。

MESSAGE

軸と出会いを大切に!



金融事業部

銀行、証券、保険、アセットマネジメントの各分野において最大規模の人員・クライアントを擁し、業界において優れた実績を長く持つ総合的な金融サービスを提供。EY新日本の強みであるグローバル業務やアドバイザリー業務に加え、FinTech企業のIPO業務など、多彩な業務経験や高い専門性を得られる領域があります。業界の卓越したサービスを提供しているEY新日本に所属する公認会計士のキャリアの可能性もますます広がっています。

メンバー紹介

S.Kato

2016年入社
FAAS事業部
マネージャー



自らの意志と行動で、キャリアの道を開いていく

クライアントに寄り添いながら

私の所属するFAAS事業部では、クライアントの経理・財務部門への多様なサポートを行っています。クライアントは金融以外の幅広い業種にわたり、比較的中規模の企業が中心です。具体的な業務としては新しい会計基準の導入支援や決算業務の効率化に向けた会計システムの導入など幅広く、クライアントによって異なります。会計監査は年間を通じて取り組む業務が決まっているのに対し、FAAS事業部での業務はクライアントごとにカスタマイズされたサービスを提供していることとなります。そのため、よく「FAAS事業部では何をしているのですか」と問われても、一言では説明しづらいというのが私の実感です。会計監査は売上などの

過去の数字を見る仕事であるのに対し、FAAS事業部ではクライアントと一緒にこれから数字をつくっていくための準備を進めます。入社して数年間会計監査に携わっていた経験から、こうした立場の違いは強く実感しており、それがやりがいにつながっています。

キャリアチェンジを支援する風土

私が会計監査からアドバイザリーへのキャリアチェンジを意識するようになったのは、入社4年目にシニアに昇格し、Fintech企業へのIPO支援に携わったことがきっかけでした。それまで私は大手証券会社を担当していたのですが、Fintech企業は規模も小さく、企業としての体制づくりも十



分ではなかったもので、上場準備を通じてさまざまな整備を支援しました。自分の携ったことがクライアントの成長にダイレクトにつながるという手応えは心地良く、本格的にアドバイザリー業務に携わってみたいと思うようになりました。EY新日本の魅力の一つが、部門の違いを超えて異動するモビリティを積極的に推奨する文化です。ただ、黙っていてもモビリティのチャンスは得られません。私も次の目標が見つかったという思いで、異動に向けて自ら動き始めました。具体的にはアドバイザリー業務に携わっている幅広い階層の先輩社員を人づてに紹介してもらい、仕事のやりがいなどについて聞かせていただいたのです。中にはパートナーもいらっしゃったのですが、多忙な中でも快く時間を取って私の相談に乗ってくれました。EY新日本では、パートナーは決して雲の上の存在ではないのです。このように自ら手を挙げてチャレンジしようとする姿勢があれば、部署や職階の違いを超えて背中を押してくれるのがEY新日本の仲間たちです。こうした取組みを経て私は、入社5年目にFAAS事業部に異動し、アドバイザリーとしての新たな一歩を踏み出すことになりました。もちろんFintech企業へのIPO支援の経験からIPOの

専門家を目指したいと思ったなら企業成長サポートセンターへの異動もあり得ましたし、そのまま金融事業部で公認会計士としてのスキルをさらに磨いていくこともできたでしょう。キャリアの選択肢が豊富で、しかも自らの意志で決定していけることは、EY新日本の素晴らしい点です。

管理職としてのチャレンジ

入社8年目にマネージャーに昇格しました。個人的にはまだ早いのではと感じたものの、チャレンジする姿を後輩たちに見せることでいい影響を与えられたらという思いもあって、踏み切りました。管理職となったことで視野が広がって組織全体を見るようになり、また、スタッフのマネジメントをすることで育成への意識が高まるなど、自分なりの成長を実感しています。FAAS事業部には、事業部の課題を話し合っパートナーに提言するShadow Boardという仕組みがあり、私もそのメンバーとして参画。既にいくつかの提言を通じて業務環境の変革に関わりました。Shadow Boardでは若手、中堅の違いを意識することなく自由に議論を交わしており、こうしたオープンな場があることは素晴らしいと感じています。今後は管理職として力を磨き、より魅力ある環境づくりを通じてチームや職場に貢献していきます。また、海外案件に関わる機会が増えてきたので、将来的には海外駐在にもチャレンジしたいと考えています。この先も自分らしいキャリアを切り開き、挑戦を楽しみたいです。

CAREER

- 2016年
入社。
金融事業部に配属となり、主に大手証券会社の会計監査に従事。
- 2019年
シニア昇格。
Fintech企業へのIPO支援などにも携わるようになり、アドバイザリー業務に興味を持つ。
- 2020年
FAAS事業部に異動。
決算支援やIFRSなどの新基準導入支援に従事。
- 2023年
マネージャー昇格。
管理職として部下のマネジメントを担うようになる。同時に、事業部の課題を話し合っパートナーに提言する組織であるShadow Boardにも参加。より広い視野を持つようになる。



MESSAGE

あなたらしい
キャリアを
EYで!

FAAS事業部

FAAS事業部（Financial Accounting Advisory Services：財務会計アドバイザリーサービス）は、クライアントのCFOや経理・財務部門のパートナーとして成長戦略をサポートしています。新会計基準の導入支援、決算プロセス変革支援、管理会計の高度化支援、会計DX支援など、幅広いサービスを提供し、課題解決に貢献しています。

メンバー紹介

S.Takahashi

2005年入社
(2021年再入社)
Technology Risk事業部
(品質管理本部 非監査品質管理部兼務)
シニアマネージャー



未知の IT 領域に会計士として向き合う面白さ

技術とビジネスの専門家集団

テクノロジーの発展に伴い、かつては考えられなかった新しい課題が次々と発生しています。業務オペレーションが高度化・自動化されている今日では、会計領域のみならず、IT領域の評価も必須です。Technology Risk (TR) 事業部はテック企業を中心に、ITガバナンスや内部統制の観点から、リスクを総合的に評価しています。こういったリスクは、もはや単なる技術的問題ではなく、企業の存続に関わる重要な監査対象です。私はシニアマネージャーとして、セキュリティに関する内部統制の保証業務やアドバイザリーサービスを提供しています。エンゲージメントチームを指揮し、手続き結果から導かれる問題

点や改善ポイントについてクライアントとコミュニケーションを行います。

TR事業部は、技術的な知見とビジネス理解の両方を持つ人材が集まっています。テクノロジーのエキスパートも多数所属するプロフェッショナル集団なので、上司・同僚・後輩の垣根なく、協力して課題に向かっています。

転職先でITリスクの重要性を認識

私は学生時代からITに興味があり、就職に際しても会計士になるか、IT関連の仕事に就くかで悩んだほどです。結局、前者を選び、EY新日本に入社してからは、主に金融事業部で、メガバンクグループの米国上場支援や金融機関向けの保

証業務に携わりました。その経験をもとに、私は実は入社13年目にEYをいったん退職、大手金融機関に転職しています。

転職先では、銀行、信託、証券、カードなどグループ全体の監査を行いました。その一環として見ていた銀行のガバナンスには、IT領域も含まれていました。そこでITリスクの重要性を強く認識することになります。例えば、サイバーセキュリティの脆弱（ぜいじゃく）性、AIによる意図しない判断、データ管理の複雑化、システム障害のリスクなどです。かつては人間の手作業によるミスが主なリスクでしたが、それは高度に発達したITシステム自体が引き起こす、予測不能な問題に急速に取って代わられていました。こういったことを目の当たりにして、自分の中でITへの興味が再び強くなっていました。

会計とITは不可分の関係

私は2年8カ月、その金融機関に在籍し、グループ全体を俯瞰（ふかん）する力やビジネスの理解を深めるなど、貴重な経験を積むことができました。しかし、一つの組織の業務に限定されることなく、会計士としてより広い視野でキャリアを追求したいという思いから、最終的にEYに戻ることを決意しました。EYには、一度飛び出しても、またあたたく迎えてくれるカルチャーがあり、これはEYの魅力の一つだと思います。再入社後は、かつて在籍していた金融事業部に



戻りましたが、ITに関わりたい気持ちは強く、また折しもTR事業部がEYストラテジー・アンド・コンサルティングからEY新日本へ移管になるという流れもあり、再入社して3年目に自ら希望してTR事業部に異動しました。異動に向けては、公認情報システム監査人（CISA）の資格も取得しました。

現在は、常に発展する分野で、自分自身を少しずつアップデートしながら成長できることにワクワクしています。未知の領域に挑戦できる面白さは格別です。クライアントとの対話で、これまで培った会計とビジネスの経験を生かしながら、ITの課題に対して納得感のある提案ができた時には、大きな手応えを感じます。これからの時代、会計とITは切っても切れない関係にあると言ってもいいでしょう。むしろ、ITの知識は会計士にとって大きな強みになります。会計とITの両方に興味がある人を仲間を迎えることを楽しみにしています。



MESSAGE

EYで
共に歩もう！

Technology Risk事業部

主にビジネス上のテクノロジーリスクにフォーカスしたAssurance関連業務とアドバイザリー業務の2つの領域でサービスを提供しています。主たる業務であるAssurance関連業務では、会計監査におけるIT内部統制の有効性評価やデータアナリティクス、各種保証・認証業務を行っています。監査業務でさまざまな経験や知見を得ることができ、それをベースにアドバイザリー業務に生かしていくことができます。さらに、アドバイザリー業務で得た経験や知見を、監査の高度化などにつなげています。

CAREER

- 2005年
入社。
監査1部に所属。国内大手メーカーなど会計監査業務に従事。
- 2006年
国際部(現金融事業部)に異動。
メガバンクグループの米国上場支援に従事。大手企業の業務について知見を得る。
- 2007～18年
金融機関向け保証業務に従事。
国内・外資系企業のエンゲージメントマネージャーとして業務を統括。
グローバル展開する企業のオペレーションについて知見を得る。その間、2008年、シニアに昇格。2011年、マネージャーに昇格。2015年、シニアマネージャーに昇格。
- 2018年
大手金融機関に転職。
IT領域も含めビジネス全体へのガバナンスについて知見を得る。
- 2021年
再入社。
金融事業部でファンド監査や金融機関向けの保証業務、非監査業務の品質管理などを担当。
- 2024年
TR事業部に異動。

メンバー紹介

T.Deguchi

2010年入社
イノベーション推進部AIラボ
シニアマネージャー



MESSAGE

一緒に
Enjoy Working
しませんか？

CAREER

- 2010年
入社。
監査2部（当時）に配属。国内製造業を中心に会計監査業務に従事。
- 2012年
シニア昇格。
- 2016年
マネージャー昇格。
イノベーション推進部の前身であるAIラボとの兼務開始。
- 2019年
AIラボ専従となり、プロダクトマネージャーとしてデータ分析ツールの開発をけん引。
- 2022年
シニアマネージャー昇格。

T.Deguchi

2010年入社
イノベーション推進部AIラボ
シニアマネージャー

公認会計士試験合格後に補習所で学んだ際、EYで働くメンバーと会話する中で、興味を抱くように。面接等を通じてEY新日本には誠実で穏やかな人柄のメンバーが多いことを知り、自分に向いていると感じて入社を決める。早くからテクノロジーを監査業務に適用させる必要性を感じ、自ら希望してAIラボに異動。休日には育ち盛りの2人の息子と一緒に過ごす。

デジタルツールで誰もが幸せな社会を

先端技術で不正リスクを抑える

会計不正はステークホルダーや社会に、大きな影響を及ぼします。当事者はもちろんのこと、従業員や取引先、株主、私たち監査法人等、あらゆる関係者の社会的価値が毀損（きそん）されます。それはEYがパーパス（存在意義）として掲げている「Building a better working world ～より良い社会の構築を目指して」とは対極にあると言えるでしょう。デジタルの力でこうした会計不正のけん制力を高めることは、会計不正のない「より良い社会」の実現に寄与することにつながります。私は公認会計士として働く中、関与する全ての人にとってよりよい状態をつくることをモチベーションにしてきました。そのために監査業務においてテクノロジーが正しく力を発揮する環境づくりを心がけています。それはきっと仕事をする全ての人々のEnjoy Workingにつながると思っています。

監査の経験を生かしながら

かつて監査は、対象となる全データから一部の取引や項目を抽出して行う試査が中心でした。今やテクノロジーの発達によって精査も視野に入ってきてい

イノベーション推進部

AIを含む先端テクノロジーを用いた分析ツールや自動化ツールの開発および開発したツールも活用しながらアシュアランス業務のデリバリー・データ分析を実施しています。事業部と連携し、アシュアランス業務の業務革新を推進しています。



ます。私はこうした監査ツールの開発に取り組んでおり、生成AIを含めテクノロジーが急速に発達する中で、どのようにそれらを監査実務に適用させるのがよいかといった課題の最適解を、テクノロジーへの理解と監査経験の掛け算で求めています。より良い監査を求めて、チームメンバーと一緒に“人とテクノロジーの掛け算で監査品質を上げていく”仕事に、大きなやりがいを感じています。重要なのは「何を分析すべきか」という知見がなくては監査の現場で価値を発揮するプロダクトの開発は難しいということです。この点において入社以来約9年、監査業務に専念してきたことが私の強みになっています。監査の現場で感じた「テクノロジーがあればこんなこともできるのでは」というインスピレーションを実行に移せる、大きな魅力を感じる取り組みです。

メンバー紹介

U.Arashida

2016年入社
イノベーション推進部AIラボ
マネージャー



MESSAGE

新たな一歩を
共に踏み出そう！

CAREER

- 2016年
入社。
大学3年生の時に学生非常勤として入社し、第1事業部に配属される。製造業やソフトウェア業などの企業の会計監査のほか、IPO業務にも携わる。
- 2020年
シニア昇格。
テクノロジーを利用した新しい監査手法に触れる中、デジタルを利用した監査に強い関心を持つようになる。
- 2021年
AIラボに異動。
主に売上取引異常検知ツールの企画開発などを担当。
- 2023年
第1事業部兼務となり、AIラボで監査ツールの開発業務に携わりつつ、中規模上場会社の会計監査も主査として担当。
- 2024年
マネージャー昇格。

U.Arashida

2016年入社
イノベーション推進部AIラボ
マネージャー

業界内でいち早く変革に取り組んでいる姿勢に共感し、EY新日本に入社。大学3年の冬より学生非常勤として週に2日程度勤務し、経験を積む。入社後は第1事業部で製造業などの会計監査を担当。4年目に自ら希望してAIラボに異動し、監査ツールの開発に取り組む。

監査とテクノロジーの架け橋として

公認会計士がツール開発に携わる意義

AIを活用した監査ツールの開発などを行っているAIラボで私が担当したのは、売上取引異常検知ツール「SLAD」の開発です。不正リスクの高い取引を検知するツールが「SLAD」ですが、開発側のデータサイエンティストなどはその判断精度を上げることに注力しがちなのに対し、ユーザー側の公認会計士はシロやクロの判断の背景を知りたい傾向にあります。こうした考え方の違いが生み出すギャップを埋めることが、公認会計士の経験を持つ私の役割です。「SLAD」リリース後はユーザーに意見を聞き、開発側にフィードバックしてアップデートを繰り返し、うまくユーザーの意見を取り入れたツールに仕上げることができました。私ならではのバックグラウンドを生かして開発したツールを実際に監査チームが使ってくれているのは大変うれしく、監査品質の向上に貢献できていると自負しています。

監査と開発に軸足を置く

文系出身の公認会計士として入社した私が今はAIを活用したツールの開発に携わっているのですから、ま



さに想定外の未来が待っていたという思いです。会計監査に携わる中で新しい監査手法に興味を抱き、自ら希望してAIラボに異動したことでかなえられた未来像でした。当時所属していた第1事業部の仲間も私の異動を応援し、快く送り出してくれました。その後、一度第1事業部に復帰し、AIラボとの兼務で会計監査と開発の双方に携わった時期もありました。これも会計監査の課題を自らの実体験として感じることを、より現状に即したツール開発のためにフィードバックしたいという思いからです。監査と開発の両方に軸足を置く、とてもバランスの良い状態だと感じています。会計監査のDXでEY新日本は、常に先駆的な取り組みで卓越したサービスを提供してきました。今後の変革に向けて、私もさらなる貢献をしたいと考えています。

イノベーション推進部AIラボ

監査ツールをはじめ次代の監査・保証サービスの実現を目指して、2020年にAIラボが発足。AIを含む先端テクノロジーを用いたアシュアランス業務の研究、ツールの開発を担っています。「EY Helix GLAD」に搭載された会計仕訳の異常検知技術は特許を取得しました。

メンバー紹介

S.Yamaguchi

2010年入社
EYストラテジー・
アンド・コンサルティング(株)
(出向)
マネージャー

MESSAGE

EYであなたの
可能性を広げませんか？

メンバー紹介

Y.Kawaguchi

2011年入社
EY台湾事務所(出向)
シニアマネージャー

MESSAGE

Shape Your Future
with EY

CAREER

- 2010年
入社。
金融事業部INS(生命保険会社監
査チーム)にてJGAAP会計監査・
JSOX内部統制監査に従事。
- 2013年
金融事業部BCM(銀行・証券会社
監査)へ異動。
大手グローバル本邦証券会社の会計
監査に従事し、子会社主査を経験。
- 2015年
シニアに昇格。
- 2019年
マネージャー昇格。
EY UKエジンバラ事務所へ駐在。UK
GAAP・IFRS会計監査に従事。
- 2021年
帰国後金融事業部FAASIに所属。
金融機関に対する内部統制支援を
中心にアドバイザー業務に従事。
- 2022年
EYストラテジー・アンド・コンサル
ティングへ出向。
国内金融機関への内部統制支援、会
計コンサルティングなどを担当。

S.Yamaguchi

2010年入社
EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)
(出向)
マネージャー

2010年入社。入社を決めたのは、全体的に温かな雰囲気を感じられたから。その印象は入社後も変わらず、常に居心地の良さを感じている。趣味は茶道と旅行。茶道は会社の茶道部に所属しており、月1回は練習に参加する。休暇には国内外に旅行して気分転換を図る。

さまざまな選択肢がある環境、ビジネス理解を深める出向

メンバーファームで貴重な経験を蓄積

現在は、EYストラテジー・アンド・コンサルティング(EYSC)に出向し、主にマネージドサービスを担当しています。マネージドサービスとは、クライアントにとって中核ではないものの取締役会にとって重要な業務をサポートし、企業の業務効率化を目的とする期待成長分野のサービスです。私はPMO*として、グローバルに、クライアントをはじめとする社内外の各分野の専門家間の連携や予算管理、品質確保などにあたっています。クライアントの要求水準が業界でも非常に高く、厳しい場面もありますが、チームで成果を上げた時の喜びはひとしおです。マネージドサービスはEYのグローバルネットワークの重点領域の1つで、標準化による成長が期待されています。監査法人でも幅広く展開可能なので、出向中にノウハウを構築し持ち帰りたいと思っています。

*PMO:Project Management Office(プロジェクトマネジメントオフィス)

豊富な選択肢からキャリアを構築

EYでは、個々の思い描く方向性が尊重される環境があります。私はビジネスの理解を深めるため



EYSCへの出向を希望し、現在その興味が満たされていることに手応えを感じています。業務内容はもちろん、監査法人とは雰囲気まったく異なり、別の会社に転職したような感覚があり、出向でそのような経験ができるのは貴重です。キャリアの選択肢は多様で、私のようにメンバーファームで会計監査以外のさまざまな仕事にチャレンジすることができるほか、官公庁や一般企業などに出向する機会もあります。グローバルなつながりが強いのも特長で、私は入社10年目にEY UKのエジンバラに駐在しました。私の場合、最初から長期的な目標があったわけではなく、キャリアを築きながら進むべき道を模索してきました。その都度、EYには多様な選択肢があり、周囲のサポートを得られたことに感謝しています。今後はこれまでの経験を生かして貢献していきたいです。

EYストラテジー・アンド・コンサルティング

EYストラテジー・アンド・コンサルティングはEYのコンサルティング部門とトランザクション部門が統合して誕生した総合コンサルティングファームです。EYグループの一員として戦略立案からM&A支援、DX推進までをワンストップで提供しています。

CAREER

- 2011年
入社。
幅広い業界の監査業務、アドバイザ
リーなどの非監査業務を経験。
- 2014年
シニア昇格。
上場企業や複数の会社法監査の主
査、各種非監査業務、IPO業務に携
わる。
- 2018年
マネージャー昇格。
大規模クライアントのコンバージョ
ン、監査マネージャー業務に従事。
間接業務にも注力し、建設セクター
執行メンバーとして社員サプリー
ダー、監査・会計WG長を務め、セク
ターナレッジを社内浸透。
- 2022年
シニアマネージャー昇格。
EY各サービスラインと連携してクラ
イアントをサポート。
- 2024年
海外駐在(台湾)。
現在、中国語習得にも注力。

Y.Kawaguchi

2011年入社
EY台湾事務所(出向)
シニアマネージャー

2011年入社。大学時代、専門知識をもってさまざまな企業に関与できることに魅力を感じ、会計士を目指す。台湾駐在はオンもオフも非常に刺激的。親切で温かい台湾の人々にも支えられ、2人の子どもたちは現地の小学校、妻は現地の大学で学び、家族共に台湾の文化を存分に楽しんでいる。休日は家族と台湾の美しい山や海に足を伸ばし、台湾を満喫している。

自らの可能性を広げる、台湾での新たな挑戦

経営の最前線と切磋琢磨する チャンスがここにある

EY台湾ではジャパンビジネスサービス(JBS)に所属しています。JBSの主な役割は、日系企業の会計監査や税務をはじめとした企業運営全般のサポートです。私自身は約100社の日系企業を担当し、日本と台湾の会計監査実務、文化や商習慣の違いも踏まえ高品質なサービス提供に努めています。同時に、新規顧客開拓や既存顧客への新規業務提案も行っています。セミナー開催やニュースレターなどの情報発信も営業努力の一環です。半導体関連などの製造業、再エネ事業、小売、不動産といった多様な業種のトップマネジメントと日々直接向き合い、経営に関わる深い議論を重ねる機会があります。このような環境に身を置けることが、大きな刺激とやりがいです。さらに、近年増加している台湾から日本への進出案件サポートのため、JBSとして新たな取り組みの導入をリードしています。

海外駐在で次のステージへ

海外駐在は、キャリアの延長線上で次のステージに



進むために必要だと考えました。入社以降、さまざまな業界の監査業務、非監査業務やIPO業務、加えて書籍執筆など、仕事の幅を広げてきました。さらに強化したいと思ったのは国際的な対応力や営業力です。EYにはこれらの能力を伸ばすフィールドがあります。駐在先は、業務が幅広く経験できる東南アジア、特に長期成長を続ける台湾を希望。現在は、台湾のダイナミックな市場で、数多くの企業トップと直接関係を築きながら、自身の成長を日々実感しています。このように入社以来、常にチャレンジの機会を与えられ、キャリアの岐路では迷うこともありましたが、そのたびにまわりのメンバーが背中を押してくれました。挑戦を支え合うカルチャーがEYには根付いています。今は自分がそのバトンを次に渡す番。共に挑み、共に成長できる仲間を、心から歓迎します。

EY台湾事務所

EYは、世界150以上の国と地域に約40万人を擁するプロフェッショナルファームのグローバルネットワークです。EY台湾事務所は、そのうちの一つの組織です。6つの拠点及び約2,300名の専門スタッフにより、台湾域内全土をカバーし、多様なサービスを提供しています。

Round-Table Discussio n

若手メンバー座談会

EYで切り開くキャリア、多様な経験が会計士としての成長を促す

EY新日本は、一人一人の興味や意欲を大切にします。思い描いたキャリアに向かって自ら手を挙げれば、多様な業務にチャレンジできる環境が魅力です。異なる分野で活躍する若手メンバー3人が、EY新日本だからこそ実現可能だった、入社後の充実した歩みを振り返りました。



T. Kashiwagi

2019年入社
金融事業部
シニア

ビジネス社会における共通の言語である会計を武器に、グローバルな環境で信頼される人材を目指したいと考え、大学入学と同時に公認会計士試験の勉強を始める。大学2年生で公認会計士試験に合格し、会計+αの専門性とグローバル対応力を求めて、学生非常勤として金融事業部へ入社。シニアでシンガポール駐在を経験。現在は大手都市銀行を担当。旅行が趣味で、国内外問わず各地を訪れている。



N. Kawashima

2021年入社
企業成長サポートセンター
シニア

若くても専門性を生かしてクライアントと対等に議論ができることに引かれて、会計士を目指す。大学3年生で公認会計士試験に合格、大学卒業後に大手証券会社に就職。その後、公認会計士としての業務経験を求め、人を大切にする組織風土の良さを感じていたEY新日本に転職。趣味はグルメ、サウナ、ゴルフ、筋トレ。



M. Ito

2018年入社
FAAS事業部
シニア

通っていた大学が資格取得に力を入れていたのをきっかけに、会計士の仕事に興味を持つ。大学3年生で公認会計士試験に合格、地元の浜松事務所に学生非常勤として入社。7年目にモビリティ制度を活用して、アドバイザリー部門であるFAAS事業部に異動。ジャズ鑑賞が趣味でライブにも足を運ぶ。

業務内容と社風が入社動機 早くから責任ある仕事に従事

Kashiwagi まずは、入社動機から話しましょう。私は、自分の強みを持ち、それが市場で評価され続けるキャリアを築きたいと考えていました。EY新日本は、就職活動の中で特に興味をもった法人で、金融業界に強みがあり、グローバル展開している大規模クライアントを数多く担当していることが決め手になりました。

Kawashima 私は学生時代から「社会にインパクトを与える仕事がしたい」としており、特にスタートアップ企業の支援に関与したいと思っていました。前職でもIPO支援に携わっていたのですが、よりクライアントに近い立場で、自分の知識を役立てたいと考えて、国内外でIPO支援の実績が豊富なEY新日本に転職しました。社員の皆さんが生き生きと仕事をしている様子も印象的でした。

Ito 私がEY新日本を選んだ一番の理由は、大手監査法人で唯一、地元の浜松に事務所があったからです。また、浜松事務所は規模が小さく、親しみやすい雰囲気であること、さまざまな業界の監査に携われることも魅力でした。

Kashiwagi 入社してから、「イメージと違った」というようなことはなかったですね。予想に反してうれしかったのは、早くからさまざまなチャレン



ジの機会を与えられたこと。いわゆる下積み期間がもっと長いのではないかと思っていたんです。でも、実際には若い年次からリーダー業務や海外駐在など、チャレンジングでやりがいのある経験を積ませてもらえました。

Kawashima IPO支援に関しても、想像以上に早くから、深く関与できました。組織風土の点では、フラットで風通しが良いことを再認識しました。上司や先輩とも距離が近く、若手でもしっかり意見を聞いてもらえます。

Ito 私の場合、学生非常勤として入社した時、同期の常勤スタッフと比較して業務の幅が制約されるのではないかと思っていたのですが、常勤スタッフと同じような業務に携わることができたのが良い意味でのギャップでした。質問や相談のしやすい雰囲気は入社前後で変わりませんでしたね。



興味がある分野で キャリアを築くやりがい

Kashiwagi 現在の仕事の話をする、EYシンガポール出向から帰任後は、大手都市銀行の監査業務を中心に従事しています。中でも、銀行業のメインである貸出金・貸倒引当金関連のリーダーとして、15名ほどのチームをリードしています。また、近年議論が進められている金融商品会計基準改正に関するプロジェクトやアドバイザリー業務にも携わっています。

Kawashima 企業成長サポートセンターでIPO支援を専門に行っています。現在は、日本経済にとって非常に重要な役割を担うスタートアップ企業の案件も担当させてもらっていますし、監査では主査業務も務めています。また、IPO準備企業の開拓や案件獲得のための営業活動にも携わっており、セミナーの開催やカンファレンスへの参加など、外交的な活動もしています。

Ito FAAS事業部に所属して、組織再編の会計上の論点に関する相談対応や財務諸表作成支援、IFRS導入支援を担当しています。FAAS事業部への異動前は監査業務に従事しており、財務諸表を第三者の視点から見る立場でした。一方、FAAS業務では、財務諸表を作成するクライアントと同じ視点に立つことが求められるため、視野が広がり、面白さを感じています。お二人も希望していた仕事に就いて充実している様子ですが、それぞれの分野でやりがいはどのようなところに感じますか？

Kashiwagi 金融は全ての会社で切り離せない要素であり、金融機関とも関わりながら得た知識・経験は、今後多くの分野で生かしていけると実感しています。また、海外展開している企業も多いため、海外駐在の機会も多くあります。私は早い段階で海外駐在の機会をもらいましたが、

日本に帰ってからもその経験を監査業務にも生かすことができています。専門性と自らのグローバル対応力を高め、日本にとどまらず、幅広いステークホルダーに自身の仕事の影響していることを感じられるのがやりがいになっています。

Kawashima IPO支援では、会社が上場という大きな節目を迎える中で、経営者や担当者や議論を重ね、信頼関係を築いていく過程に大きなやりがいを感じます。企業の成長ストーリーの一部を担っている手応えを感じられます。

若手の挑戦を応援 成長を後押ししてくれる風土

Ito これまでで最大のチャレンジはなんでしたか？ 私にとっては、事業部間や地区事務所間で異動ができるモビリティ制度を利用して、浜松事務所からFAAS事業部に異動したことです。でも、業務内容が変わったことに加え、東京事務所に人がいない、東京に住むこと自体が初めてなど、不安なこと実は少なくありませんでした。

Kashiwagi 私の場合は、大学卒業後、2年目にシンガポール出向に挑戦したことです。まずぶつかったのは、言葉の壁でした。英語は勉強していましたが、現地では違ったアクセントや言い回しが使われていて、出向初日から現地メンバーとコミュニケーションが取れず、激しく落ち込みました。監査業務に加えて、アドバイザリー業務もほぼ初めて担当することになり、最初は戸惑いの連続でした。

Kawashima 私にとって最大の挑戦は、若手の時期に任された上場準備企業の主査業務です。会計基準や内部統制が整備されていない企業で、監査業務を進める上での経験もない中、クライアントと膝を突き合わせて協議を重ねました。あらゆる事象に対する会計方針の検討から、内部統制の構築支援まで、クライアントとゼロベースで一つひとつ進めていく必要がありましたが、上司が要所要所で支えてくれて、最後までやり遂げることができました。

Ito 私の場合も、浜松事務所とFAAS事業部の双方で、多くの人に親身になってもらえたことで、もろもろの不安は解消され、前向きな気持ちを維持することができました。EYには若手の挑戦を応援してくれるカルチャーがありますよね。

Kashiwagi EY新日本全体に、人を育てようと

する風土があります。シンガポールでも、私の奮闘を周囲がしっかりサポートしてくれたので、心強かったですし、最終的には一回りも二回りも成長できた実感があります。

Kawashima しかも、失敗を責めるのではなく、そこから学ぶことを大切にしてくれます。困った時に必ず相談に乗ってくれる上司や先輩には、実務だけでなく精神的にも助けられています。

Ito カウンセリングファミリーという制度もあります。事業部ごとに運営方法は多少異なるかもしれませんが、オープンに相談ができる場として活用されています。



入社を考えている 皆さんへのメッセージ

Kashiwagi 好奇心と向上心が強く、積極的に挑戦する姿勢があれば、若い年次からさまざまな経験をさせてくれる、チャレンジングで魅力的な環境が用意されているのがEY新日本です。私自身、帰国子女ではありませんが、若くして海外駐在という機会に恵まれました。そんな環境を求めている人はぜひ、飛び込んでみてください。

Kawashima EY新日本には、さまざまな個性を持つメンバーがそれぞれの個性を生かすことで付加価値を最大化する文化が根付いています。個性を生かせる多様な機会が広がっているの、自分の個性に自信を持って入社してください。

Ito 私は当初はどちらかといえば受け身で、具体的な方向性も決まっていませんでした。でも、一歩踏み出して挑戦してみると、世界が大きく広がりました。EYでは、「やってみよう」と決めたら、多くの人が力になってくれます。

Kashiwagi・Kawashima・Ito 私たちも皆さんの力になります。一緒に成長しましょう！



Work-Life Balance

多種多様な働き方

EY新日本では、誰もが自分らしさを大切にしながらキャリアの道を歩んでいます。ライフイベントとの両立の仕方は人それぞれであり、そうした多様性こそがEY新日本の魅力です。EYでは、異なる個性、人生観、ライフステージを持つ多様な人々が能力を最大限に発揮できる「自分らしい働き方」の実現に向けて、制度の充実を図っています。ワークライフバランスの実現は、業務の生産性向上と相乗効果を生むことが期待できます。真のプロフェッショナルとして、単なる労働時間の短縮にとどまらず、働き方の「質」を変えていくことを目指しています。あなたもEY新日本で自分らしい働き方を見つけてみませんか？

柔軟な勤務制度

■ リモート勤務制度（在宅勤務制度）

EY新日本では、多様な働き方のニーズに応えるために、リモート勤務制度があります。その日の業務内容に合わせてオフィス、リモート勤務（自宅のみ）、クライアント先など、上長と相談しながら勤務場所を決めることができます。リモート勤務制度を利用することで、通勤時の負荷が減り、生産性の向上だけでなくプライベートな時間も確保できるため、ワークライフバランスを保つことができます。

■ 中抜け勤務制度

1日の所定時間（通常7時間）の始業の前後の時間に充当することで、所定時間の間に業務を中断し私用で、「中抜け（2時間以内）」をすることが可能な制度です。この制度は、リモート勤務（自宅のみ）や選択シフト勤務との併用も可能であり、例えば、子どもの学校などの用事や役所や銀行の手続きで、日中の時間に抜けたいときなど、この制度を活用することで実現可能となります。柔軟な働き方からさらに一歩進んだ、自分自身のワークライフバランスを積極的に設計できる制度です。

■ 選択シフト勤務制度

1日の所定勤務時間（通常7時間）のまま、業務上の必要性を前提として、自らの判断で複数の勤務パターンから執務時間を選択できます。真のプロフェッショナルとして、単なる労働時間の短縮にとどまらず、働き方の「質」を変えていくことを目的としています。



育児・介護支援施策

■ フレキシブルワークプログラム

下記に該当するメンバーは、「短時間勤務（1日5時間以上）」・「所定時間のみの勤務」のほか、「所定労働日数の低減」の勤務形態を選択することができます。女性だけでなく、男性メンバーも利用しています。

- ・ 小学校卒業までの子を養育するメンバー
- ・ 要介護状態にある家族を介護するメンバー
- ・ 障がい者手帳を有するメンバーまたは障がい者手帳を有する同居人の介助が必要とされるメンバー

■ 育児コンシェルジュ

仕事と育児の両立支援策の一環として、「育児コンシェルジュサービス」を導入しております。妊娠中から現役ママ・パパさんの育児相談、保活まで育児に関するどんなご相談事も専門のコンシェルジュが相談に応じます。

■ 介護支援制度

介護と仕事を無理なく両立できるよう、独自の支援制度を整えています。介護休暇は、家族1人につき年間最大5日間取得でき、時間単位での取得も可能です。状況に応じて柔軟な働き方を選択することで、長期的なキャリア形成を支援します。

■ 育児休業

育児休業を最長で2歳まで*取得することができます。また、2回に分割して取得することもできます。
※保育園に入園できなかった場合など

■ ベビーシッター利用料補助

小学校卒業までの子どもを養育するメンバーが業務のためにベビーシッター、延長保育、病児保育などを利用する場合、利用料の60%を補助しています。

■ 妊活休暇

男女共に年間20日まで妊活休暇（無給）を取得できます。

■ 育休中のiPad貸与

2021年7月に育児休業メンバーへのiPad貸与を開始。男性の育児休業推進、同僚とのコミュニケーション、自己啓発支援、休業・復職関連の事務のデジタル化を目的に育児休業メンバーへのiPad貸与を開始しました。



Work-Life Balance



H.Kinoshita

2007年入社
第2事業部
シニアマネージャー

「あなたのペースでいいんだよ」 その言葉に感謝の気持ちでいっぱいです

長女の出産に際して1年半ほど休職し、その後復職したものの夫に帯同して渡米することに。「配偶者帯同休職」という制度のおかげで退職せずに済んだことはありがたかったです。米国で長男を出産し、帰国後は過酷な“保活”を乗り越えてEY新日本に復職。自分のペースで徐々に業務量を増やしていきました。現在は「フレキシブルワークプログラム（短時間勤務等）」を利用していますが、休職中も、復職後も「あなたのペースでできることをやってもらえればいいんだよ」と言っていただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。ブランク期間は長かったですが、私という人間をつくってくれた大切な経験ができました。EY新日本という大きな組織を支えているのは、メンバー一人一人です。これからもバランスを取りながら自分のペースでキャリアを積んでいきたいと思います。



沖縄旅行で泊まったホテルのお馬さんです。お出かけ大好き家族なので、週末も長期休みもアウトドアが多い我が家です。

Voice

長い人生、さまざまなライフイベントや変化を楽しみながら乗り越えていくために、一人で抱え込まず、みんなで前に進める環境と一緒につくっていきましょう！

上司、同僚からの後押しが心強い 男性メンバーの育休取得は一般的



娘が1歳になりよちよちと歩き始めるようになりました！休日は公園に行くなど、家族との時間を大切に仕事での疲れを癒しています！

第1子誕生に際して、2024年4月から6月の約2カ月間、育児休業を取得しました。業務のピーク時期と重なりましたが、相談した上司や同僚に後押しされ、個人の生活環境や価値観を尊重する文化が社内根付いていることを再認識しました。実際、EYでは近年、男性が1・2カ月程度の育児休業を取得するのはごく一般的で、中には1年取得する人もいます。育休中はおむつ替え、ミルクづくり、寝かしつけなどはもちろん、離乳食づくりや沐浴・入浴など、授乳以外は一通り分担できたと自負しています。それによって家族の絆も深まり、今も家事と育児は分担するのが習慣になっています。また、育児の大変さを実感することで、女性の社会復帰支援の重要性も理解できました。現在は週の半分程度の在宅勤務を活用し、育児と仕事の両立を図っています。

Voice

仕事がどれほど大事でも、「ワークライフバランスを優先したい」という場面は、誰の人生にも必ず訪れるもの。その想い、EYでは当然のこととして受け止められます。

EY | Building a better working world

EYは、クライアント、EYのメンバー、社会、そして地球のために新たな価値を創出するとともに、資本市場における信頼を確立していくことで、より良い社会の構築を目指しています。

データ、AI、および先進テクノロジーの活用により、EYのチームはクライアントが確信を持って未来を形づくるための支援を行い、現在、そして未来における喫緊の課題への解決策を導き出します。

EYのチームの活動領域は、アシュアランス、コンサルティング、税務、ストラテジー、トランザクションの全領域にわたります。蓄積した業界の知見やグローバルに連携したさまざまな分野にわたるネットワーク、多様なエコシステムパートナーに支えられ、150以上の国と地域でサービスを提供しています。

All in to shape the future with confidence.

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバルネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。EYによる個人情報の取得・利用の方法や、データ保護に関する法令により個人情報の主体が有する権利については、ey.com/privacyをご確認ください。EYのメンバーファームは、現地の法令により禁止されている場合、法務サービスを提供することはありません。EYについて詳しくは、ey.comをご覧ください。

EY新日本有限責任監査法人について

EY新日本有限責任監査法人は、EYの日本におけるメンバーファームであり、監査および保証業務を中心に、アドバイザリーサービスなどを提供しています。詳しくは ey.com/ja_jp/about-us/ey-shinnihon-llcをご覧ください。

© 2026 Ernst & Young ShinNihon LLC.
All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスを行うものではありません。EY新日本有限責任監査法人および他のEYメンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

ey.com/ja_jp